

2011.01.21

京王線地下化の請願に関する補足説明

京王線立体交差事業について、下記理由により、住環境悪化をもたらす高架化の素案を見直し、地下化で推進していただきたく、請願いたします。

記

1. 現在の素案は、在来線路を高架にし、線増線（複々線）部分は調布から笹塚までノンストップの地下線にするという併用方式ですが、全線地下方式の検討が不十分であると言わざるを得ません。
 - ①高架にする唯一の根拠として、建設後40年を経過した笹塚と八幡山駅の高架部分を生かすことを条件とした建設費の差を挙げていますが、土地の買収費を含む積算内容の開示が不十分で、いまだ明らかにされていません。
 - ②小田急線梅が丘～喜多見間の高架化事業があれだけ長期の訴訟になり、都内住宅地での高架化の困難性が問題となった中、同じ小田急線の成城学園は地下化され、下北沢付近及び京王線調布駅付近が地下化されつつあり、つい最近では西武新宿線の中井～野方間も地下化がほぼ決まりました。こうした動きがありながら、住宅密集地の京王線笹塚～つつじヶ丘間がなぜ高架なのか、納得できません。
 - ③今回の素案でも、現に複々線部分は地下化される計画です。用地の買収や工事期間中の長期の騒音被害等を考えると、シールド工法による地下化の方が合理的と考えます。
 - ④少子高齢化による人口の減少、特に労働力人口の減少は確実であり、これは通勤・通学客の減少、すなわち鉄道利用者の減少を意味します。建設費の多寡を言うのであれば、敢えて複々線化に拘ることなく、現状の複線の地下化だけという選択肢もあると考えます。
2. 東京都、杉並区、世田谷区は、いずれも「緑化」を街づくりの基本方針として推進していますが、高架化はこの方針に沿ったものとは思われません。
世田谷区にあっては「世田谷みどり33」、杉並区にあっては「杉並区みどりの基本計画」という立派な緑化政策があります。地下化による地上部分の緑化は、これらの緑化政策を実現する絶好のチャンスであります。すでに中野区は、住民の要望に従い地下化を前提にした街づくりを進め、都は地下化を決めています。
3. 高架化による住環境の悪化、高架下の環境悪化、街の分断は、他の高架事例が顕著に示しており、将来に禍根を残すべきではありません。
 - ①杉並区にとって最も身近な鉄道路線は、区の中央を走る中央線です。その中央線の高円寺から西荻窪までの高架は昭和40年代に完成したものではありませんが、高架に近接した住宅の騒音と日照問題、夜間になると近寄りがたくなるような不気味な高架下付近の雰囲気、南北の街の分断など、高架付近は明らかに住環境の悪い地区となっています。
 - ②小田急線の高架においても、先ごろ騒音訴訟で世田谷区住民の一部勝訴判決が出ていますように、都内住宅地においては騒音問題が避けられません。

4. 下高井戸 1 丁目地区は、京王線と甲州街道（上部に首都高 4 号線の高架）に囲まれた南北約 100~200m 程の住宅地で、京王線の高架が出来た場合は、首都高の高架に挟まれた窪地と化し、景観、騒音の共鳴など住環境の悪化、それに伴う資産価値の減少が容易に予想されます。
また、地震で高架道路、鉄道の双方が倒壊した場合、その間に挟まれた 3 km を超える地域住民は南北への避難路を失い大変なリスクを負うことになります。
道路と鉄道の高架がこれだけ狭い間隔で 3 km 強の区間にわたって続く地域は極めて特異であり、しかもその地域に存在するのがほとんど低層住宅であることから、正に窪地と化してしまいます。
5. 在来線路南側を買収して高架にする計画ですが、素案では南側に付属道路の計画がなく、南側建造物と高架線路との間隔がどれだけとれるのかが不明であり、近接した場合には、景観が損なわれ、騒音問題も発生し、中低層住宅の住環境の悪化と資産価値減少は容易に予想されます。
6. 北側には側道が計画されていますが、車両通行の増加とそれに伴う車両騒音の悪化が予想されます。
7. 夜間の高架化工事が長期にわたり施工されるため、沿線住民の騒音被害が甚大となることが予想されます。
8. 立体化事業自体が南北の縦断道路拡幅と一体であるにもかかわらず、環境アセスが道路拡張を全く想定していないのは極めて理不尽であります。

京王線は、杉並区の南のはずれを掠める程度の路線ですが、以上に述べたように高架により大きな環境悪化が想定されます。それに対する事業者の説明も不十分であります。

私どもは、「開かずの踏み切り解消」という事業目的に反対するものではありません。開かずの踏み切りを一日でも早く解消してもらいたいのは、地域住民として最も望んでいることではありますが、その手法について問題にしております。

美しく住みやすい環境を次世代に残すことは、将来の日本の展望と密接な関係があり、禍根を残すことのない、高く広い視野での計画策定を政治に求めるものであります。

効率、経済性を主な基準としてきたこれまでの日本を変えられるのは政治であり、市民の責任ある行動だと考えています。

過去の基準に基づき仕事を進めざるを得ない官僚に対し、強い指導力を期待するものであります。

特に、地元自治体は地元の事情や住民の意向を聞き、事業者に伝える役割を担っていると考えます。その意味でも、どうか今回の請願を重く受け止めていただきたく、お願い申し上げます。

以上

下高井戸 1 丁目周辺地域の環境を考える会 （補足説明者：柳澤 修）